



学 会 通 信

第 106 号

2023 年 5 月 17 日発行

目次

第 30 回 日本教育メディア学会年次大会のご案内【第 1 報】	2
国際学会 ICoME2023 のご案内（現地での開催）	5
2023 年度 第 1 回研究委員会 研究会のご案内（現地開催）	7
2022 年度 第 2 回研究委員会 研究会のご報告（現地開催）	8
『教育メディア研究』特集号「教育データを活用したメディア教育の これから」募集のお知らせ	9
第 10 期 第 7 回理事会（定例） 議事録	10
学会費納入のお願い，入会者・退会者	13

第 30 回 日本教育メディア学会年次大会のご案内【第 1 報】

年次大会実行委員長 石井芳生（関西大学初等部）

第 30 回日本教育メディア学会年次大会を、2023 年 11 月 4 日（土）、5 日（日）関西大学初等部で開催することになりました。伝統ある年次大会の第 30 回という節目の年に、会場校を拝命し、身の引き締まる思いです。関西大学は 137 年の歴史がありますが、初等部は 2010 年に設立された若い学校です。当日は同キャンパス内の大学棟も会場としまして、皆様をお迎え致します。

新型コロナウイルス感染症拡大により 2020・2021 年度の年次大会、研究会は、オンライン開催を余儀なくされたものの、2022 年度は、会員・参会者の皆様のご尽力により対面での開催を実現することができました。コロナ禍期間は、オンライン通信のノウハウや利点に気づくこともできましたが、それ以上に、一堂に会し、自他の研究について議論できる対面の良さを改めて痛感した時間でもありました。

さて、昨今は、少子化の影響を受けて学校の統廃合や学生募集停止のニュースが後を絶ちません。加えて教職希望者の減少も深刻な問題になっています。また、人工知能チャットボットの誕生が社会問題として取り上げられるなど、教育やメディアを取り巻く環境が日々進化・変化する実態を鑑みるにつけ、本学会が担う役割や期待も大きくなっていると感じています。本年次大会では、より広範な領域、場面における教育メディア研究の成果を共有し、議論を通して、豊かな学びと社会を築ける場を、皆様とともに創りたいと存じます。

今回の年次大会では、懇親会も復活し、開催する予定です。懇親を深める場にしていただけると考えております。会場最寄り駅である JR 高槻駅は、JR 大阪駅から約 15 分、JR 京都駅から約 13 分とアクセスがよい場所がございます。大会実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大会プログラム

11 月 4 日（土）

10:00－12:00 理事会

12:00－ 受付

13:00－13:50 総会

14:10－16:10 一般研究発表

16:30－17:30 シンポジウム I 「” Next GIGA”を教室の片隅で考える」

18:00－20:00 懇親会

11 月 5 日（日）

09:00－ 受付

09:30－11:30 課題研究発表

11:30－12:30 昼食

12:30－14:30 一般研究発表、企画委員会セッション同時開催

14:45－16:15 シンポジウム II 「学会 30 周年企画」

※ 一般研究発表は、1 件あたり 30 分での発表・質疑応答を予定

シンポジウム I 「“Next GIGA” を教室の片隅で考える」 前田康裕（熊本大学）、山口好和（北海道教育大学）

「GIGA スクール構想」によって情報端末に触れる機会が増えた。それは同時に「知識、身体・五感、空間・時間、子どもと大人、学校と社会」とはそもそも何なのかを考える好機でもある。本シンポジウムでは、「ICT 活用」を基盤に新しい学びを追究する気鋭の学校教員お二人をお招きして、次の時代を拓く実践のあり方を展望するとともに、メディアと私たち自身との関わりや、技術と世の中のあり方を考える場としたい。

シンポジウム II 「学会 30 周年企画」 登壇者：未定、企画：宇治橋祐之（NHK 放送文化研究所）

日本教育メディア学会は 1994 年に「日本視聴覚教育・放送教育学会」として発足、5 年後の 1998 年の第 5 回大会から名称を「日本教育メディア学会」と改称して、今年度は 30 回の節目の大会を迎える。この 30 年間の教育メディア研究の動向や、学会の前身となる「視聴覚教育研究協議会」（1954 年発足、1964 年からは「日本視聴覚教育学会」と、「日本放送教育学会」（1955 年発足）の 2 つの学会の研究成果を踏まえた上で、今後の学会の方向性について参加者と共に考える。

<一般研究発表・課題研究のスケジュール>

7 月 10 日 課題研究プロポーザル受付開始

8 月 10 日 課題研究プロポーザル締切

8 月 31 日 課題研究結果通知・大会参加申込開始・一般研究発表申し込み開始

10 月 4 日 課題研究・一般研究原稿提出期限、事前参加費振込期限

<課題研究>

1) 教職課程及び教員研修における ICT 活用

小柳和喜雄（関西大学）、寺嶋浩介（大阪教育大学）

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方が論議され、教職課程では、ICT 活用に関する体系的なカリキュラムの構築と、運用、その質を確保する評価の取り組みが求められている。また自治体や学校の教員研修においても、同様に ICT 活用に関する取り組みが求められ、養成と研修をつなぐ教員の資質向上に資する指標の活用とその評価改善が求められている。本課題研究では、昨年度に引き続いて ICT 活用に関する教員養成の取り組みについて議論するとともに、教員研修との接続について議論をしていきたい。

2) 「情報活用能力」の育成と捉え直しの可能性

前田康裕（熊本大学）、稲垣忠（東北学院大学）、山口好和（北海道教育大学函館校）、小林祐紀（茨城大学）

整備された ICT 環境を生かし、学びの探究化・STEAM 化が求められる中で、「情報活用能力」の重要性はこれまで以上に認識されつつある。しかしながら、学校現場を概観すると「情報活用能力」をどのよう

に育成すればよいのかという実践面での課題とともに、授業者自身、また保護者や子どもたち自身も、どのような「能力」と理解すれば良いのかという根本的な問いに直面しているようにも見える。こうした問題状況について、さまざまな校種の実践者及び多様な研究分野の構成員を要する日本教育メディア学会ならではのマルチアングルの視点をもとに、幅広く議論したい。

3) 教育メディア研究におけるアートベース・リサーチの方向性

岸磨貴子（明治大学）、川島裕子（関西大学）

教育メディア研究の新たな研究アプローチとしてアートベース・リサーチを取り上げる。アートベース・リサーチには少なくとも次の3つの特徴がある。ひとつは、認知だけでなく、情動的、身体的な知の構築ができることである。アートの形式はさまざまな特徴があり、その独特な形式によって、多様な側面（たとえば、感情、情景、空間、関係性など）を捉えることができる。次に、研究する人/される人の境界を超えて、共同的な知を構築することができる。そして、アートの表現は、一般の読者にとっても親しみがわきやすく、これまで学術界の中だけでとどまる傾向があった研究成果を一般の人の手に届けることができ、それにより、対話をひらくことができる。この観点からも研究参加者は、研究される対象ではなく、共に知を構築する共同研究者として位置付けることができる。教育メディア研究は、歴史的に、研究者と実践者（特に教師）が共同で研究を行い、さまざまな知を蓄積してきた。それらの実践を捉え直し、また発展させるためアートベース・リサーチの観点からその方向性を探していきたい。また、日本ではまだはじまったばかりのアートベース・リサーチに対しても、教育メディア研究が蓄積してきたメディア表現のさまざまな技法は、その実践の発展に貢献できるだろう。

4) 学齢期前半までの ICT 活用の効果と課題

中村恵（畿央大学）、安井政樹（札幌国際大学）、堀田博史（園田学園女子大学）

GIGA スクール構想で整備された情報端末の活用が、次のステージに進展する中、小学校低学年の情報端末の活用頻度は他学年と比べ、あまり高くない。小学校の教科書改訂時期を迎え、生活科をはじめとした教科での ICT 活用頻度は増す、と予想される。一方、幼児教育でも ICT 活用が始まっている。保育システムの導入や担任に1人一台の情報端末の整備、さらに幼小接続を考えた幼児の ICT 活用である。保幼小接続に ICT 活用は、どのような役割を担うのかなど、学齢期前半までの ICT 活用について、参加者の皆さんと議論したい。

5) メディア・リテラシーを育む学習環境やカリキュラムの多様性

佐藤和紀（信州大学）、後藤心平（広島経済大学）

メディア・リテラシーを育む学習環境は、学校、放送局、博物館など、多様な立場のもとで提供されてきた。それぞれがデザインする学習環境やカリキュラムにおいて、目的としている学習の内容や方法はどのように異なるのだろうか。これまで、それらを相互に比較したり、関連付けて検討することはあまりなされてこなかった。しかしながら、複雑に変化し続けるメディア社会に対応できる「メディア・リテラシーの拡張」が求められる中で、それぞれの取り組みから学び合うことには意義がある。そこで、本課題研究では、学校、放送局、博物館など、ある立場のもとで発展してきた学習環境やカリキュラムについて議論したい。

<大会参加費・懇親会参加費>

Peatix で対応予定、事前は10月4日まで、それ以降は当日扱い

会員 3,000 円(事前), 4,000 円(当日)

非会員 4,000 円(事前), 5,000 円(当日)

学生会員 1,000 円(事前), 2,000 円(当日)

学生非会員 2,000 円(事前), 3,000 円(当日)

※ただし、非会員の現職教員は無料

懇親会 6,000 円(10月4日までの申し込み)

国際学会 ICoME2023のご案内（現地での開催）

研究委員会（国際研究会 ICoME 担当）

ICoME (International Conference for Media in Education) は、日本教育メディア学会 (JAEMS)、韓国教育情報メディア学会 (KAEIM)、中国教育工学会 (CAET)、アメリカ TCC (Teaching, Colleges and Community) との連携によって、開催される国際学会です。

2023年のICoMEは、CAETがホストとなり温州大学にて開催される予定です。現在のところ、オンラインでの対面開催を予定していますが、新型コロナウイルス感染症予防に関する各国の対応等影響からオンラインあるいはハイブリッドでの開催となる可能性もあります。今後の動向に関しては、日本教育メディア学会ウェブサイト (<https://jaems.jp/icomel/>) でもお知らせいたしますが、以下に記しております大会のウェブサイトもご確認いただきますようお願いいたします。

ICoMEは研究者や教育関係者、大学院生や学部生の貴重な国際的な学術交流の機会となっております。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

■日程：2023年8月16日（水）－18日（金）

■テーマ：Empowering the Future of Education with Digital Intelligence

■場所：温州大学，中国（Wenzhou University, China）

■ウェブサイト：<http://icomel2023.wzu.edu.cn/>

■今後のスケジュール

2023年5月20日：発表概要の提出期限

2023年6月1日：発表採否の通知

2023年6月20日：原稿の提出期限

2023年7月1日：参加申込の締切（発表者，参加者のいずれも）

2023年7月15日：プログラムの案内（全セッション、キーノート、その他イベント）

■プレゼンテーションの種類

（1）コンカレントセッション（一般口頭発表）

研究者および実践者による一般口頭発表です。概要を提出いただき、発表の採否が決定されます。概要が採択された場合、4-8ページの原稿提出を予定しています。なお、ご提出いただいた原稿の中から優れたものを、*the International Journal for Educational Media and Technology* 掲載のために推薦させていただきます。

（2）ラウンドテーブルセッション（学部生・大学院生向け研究発表）

1つセッションにテーマが類似する複数の発表者がアサインされ、カジュアルな雰囲気での発表、ディスカッションを行います。概要を提出していただき、発表の採否が決定されます。概要が採択された場合、2-4ページの原稿提出を予定しています。優秀な発表に対し、*Young Scholar Award* が授与されます。学部生、大学院生の英語発表や海外の研究コミュニティ参加への機会となりますので、積極的に参加を推奨ください。

■参加費（予定）

・会員（日本教育メディア学会、日本教育工学会の会員の方は以下の料金をお支払いください）

－800 RMB (~115 USD)

・非会員（上記学会の会員以外の方は、以下の料金をお支払いください）

－1200 RMB (~172 USD)

・大学院生、学部生

－400 RMB (~58 USD)

※参加費には、ノベルティ、食事、学会の公式イベントへの参加費が含まれます。

※宿泊料や移動等に関する費用は含んでおりませんので、各自でご負担ください。

※支払い方法は後日ウェブサイトにてお知らせいたします。

■その他

・温州までの簡単な経路を、学会ウェブサイトの *ICoME* ページにて紹介しておりますのでご参考にしてください。

・2023年5月現在、中国入国に際しビザ申請および出発48時間前の抗原検査もしくはPCR検査が義務付けられています（入国後の行動制限はなし）。今後入国の際の要件が変更になる可能性もありますので、参加をご予定の方は各自大使館や旅行社等のサイトをご確認ください。なお、同時点で帰国時の制限は他国と変わりありませんが、こちらについても各自のご責任にて確認いただきますようお願いいたします。

2023年度第1回研究委員会 研究会のご案内（現地開催）

研究委員会（国内担当）

テーマ「学習者が主体性を発揮する学びと教育メディアの活用／一般」

日時 2023年6月17日(土) 10:00-16:00 (予定)

会場 桃山学院教育大学 人間教育学部 堺キャンパス C棟 2,3階教室

<https://www.andrew-edu.ac.jp/access/>

担当 桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科・木村明憲

今日、小中学校においては児童・生徒に一人一台のタブレット端末が配付され、日常的にそれらの端末を活用しながら授業が行われるようになりはじめています。そのような教育における変化は、義務教育のみに留まらず、高等教育においても様々な教育メディアを効果的に活用した授業実践が展開されるに至っております。

アクティブ・ラーニングへの転換が進めるための一助として教育メディアを授業で活用していく際、学習者が主体性を発揮しながら学ぶという、教育の『本質』を忘れてはならないと考えます。

そこで、本研究会では、「学習者が主体性を発揮する学びと教育メディアの活用」をテーマに、様々な教育現場における、学習者の主体性を支える教育メディアを活用した発表を募集します。また、本テーマに関連した研究のみに留まらず、教育メディアに関する幅広い発表（一般）も歓迎いたしますので、多数のご参加・ご発表をどうぞよろしくお願い致します。

■開催方法

現地での対面開催とオンラインによるハイブリッド開催です。

- ・対面参加者はオンラインを含むすべての発表に参加・質疑ができます。
- ・オンライン参加者はすべての発表を聞くことができますが、質疑はオンライン発表についてのみ可能です。

■参加申込締切

2023年6月11日（日）（発表は締め切りました）

発表者・参加者とも対面・オンラインを問わず、必ず下記フォームより参加申込を行ってください。日本教育メディア学会会員でなくとも発表・参加が可能です。

フォーム：<https://forms.gle/iKpQfgh1XBdHHEvt5>

■参加費

無料

■その他

発表に関する詳細は、以下をご確認ください。

<https://jaems.jp/meeting/guideline.html>

2022年度第2回研究委員会 研究会のご報告（現地開催）

テーマ「メディア・リテラシー育成を目的としたメディア制作実践のデザインと学習者の評価／一般」

2022年度第2回研究会が、2023年3月18日（土）に、広島経済大学で開催されました。今回の研究会は、国の新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことに鑑み、対面で実施するとともに、まだ対面は避けたいという考えがあることを考慮し、オンラインでの発表、参加も可能とする、本研究会初のハイブリッド開催となりました。

研究会のテーマは「メディア・リテラシー育成を目的としたメディア制作実践のデザインと学習者の評価／一般」として発表の募集を行い、28件の発表、全国各地から70名を超える参加がありました（現地参加は35名）。

研究会（10:00～15:45）では、子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育、ICT環境の実現に向けた動きが進んでいる状況に関連し、情報技術や情報社会に主体的に関わる児童の育成、ドリルアプリの学習記録を学びの自己調整に生かす実践、授業支援ソフトを活用した協働学習における留意点、児童のクラウドに関する理解をいかにして評価するかといった研究発表が行われました。

また、研究会のテーマに関連した内容としては、取材と記事執筆によるメディア制作活動がメディア特性の理解を促す効果、デジタルストーリーテリング制作とSNSによる自尊感情への効果、動画の特性に着目した動画制作能力の育成といった研究の発表が行われました。

座長を務めてくださった皆さま、ご参加の皆さまのご協力により、大きなトラブルもなく活発な議論が行われ、会場では、対面での開催を喜ぶ参加者の姿も見られました。研究会にご参加くださった皆さまに、あらためて御礼を申し上げます。

（文責：後藤心平）



『教育メディア研究』特集号
「教育データを活用したメディア教育のこれから」募集のお知らせ

編集委員会

日常生活の様々な面において ICT 化が進み、誰もが容易にデータを収集することができる世の中になりつつあります。報道等においてもビックデータについての情報を耳にすることが増え、収集したデータをいかにして有効利用することができるのかを考えることが今後の社会活動を発展させる上で非常に重要なことであると感じます。

このように収集したデータを分析し、活用していくといった流れは、我々の研究領域である教育においても非常に重要な局面をむかえています。学校教育を例に挙げるとするならば、教員が児童・生徒の学習を評価する際や、学校の教育活動に対しての評価を得る際にデータを収集し、分析した後に、フィードバックするという取り組みが盛んに行われています。また、学校で行われている校内研究においても、研究授業の際に、学習者の様子を様々な角度から動画撮影し、撮影したデータを分析することを通して、学習者の学びを評価する取り組みが実施されています。さらに、学校でのデータ活用は教員に留まらず、学習者である児童・生徒がアンケートを作成してデータを収集し、集めたデータを分析して新たな価値を創造するまでに至っています。

このように教育においてデータを活用しながら、学習者が主体的にメディアを選択して学ぶ教育が繰り返されるようになりました。そこで、このようなデータを活用した教育のあり方を検討するにあたり、「様々な教育の現場において、教育データをいかに活用しようとしているのか」、また「教育データを効果的に収集・分析するためにどのようなメディアを活用することが効果的であるのか」、さらに「学習者が教育データを活用し、新たな価値を創造する上で、どのようなメディアに対する教育が必要なのか」について研究を深める必要があると考えます。

そこで、本特集号では、これらの背景を鑑み、教育データを活用した初等中等教育・高等教育・社会教育の様々な分野で行われているメディア教育についての研究を募集します。

1. 学習者の学びを深めるとともに、躓きに対する支援を行うための教育データの活用とメディア教育についての研究
2. 授業改善や指導者の指導技術の向上のための教育データの活用とメディア教育についての研究
3. 教育に関する組織において教育データを活用した実践等についての研究
4. 学習者が教育メディアを活用し、データを収集したり分析したりしたことについての研究

上記の例示にとらわれない新分野の研究や理論研究、実践研究、調査研究など様々なアプローチから、今後に活かせる成果を期待します。

また、同時に一般論文も広く募集いたします。一般論文は随時受け付けています。多く会員からの投稿をお持ちしております。

第10期 第7回理事会（定例） 議事録

[日 時] 2023年4月22日（土）14:00-16:00

[場 所] テレビ会議（Zoom）で結び実施

[出席予定者]

会長：中橋雄

理事：宇治橋祐之，村上正行，浅井和行，池尻良平，石井芳生，市川尚，稲垣忠，岩崎千晶，小柳和喜雄，岸磨貴子，黒上晴夫，後藤康志，小林祐紀，今野貴之，佐藤慎一，鈴木克明，関戸康友，泰山裕，高橋純，寺嶋浩介，堀田博史，中川一史，永田智子，山本良太，渡辺雄貴

監事：佐々木輝美

事務局：高林友美

欠席：久保田賢一，佐藤和紀，堀田龍也

<審議・報告事項>

（1）理事の退任及び就任の件（中橋）

資料に基づき，石井芳生氏を新規理事として選出することについて説明があり，審議の結果承認された。

（2）入会者・退会者・除籍者について（事務局）【資料1】

資料に基づき，前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり，審議の結果承認された。

（3）2022年度事業報告・2023年度事業計画について（事務局）【資料2】

資料に基づき，2022年度事業報告・2023年度事業計画について説明があり，審議の結果承認された。

（4）2022年度決算報告（事務局）【資料3】

資料に基づき，2022年度決算報告について説明があり，審議の結果承認された。

佐々木監事より，監査結果，正確な報告だったことの説明がされた。会員費の徴収率が高かったこと，年次大会の運営のおかげで予算が余ったことを踏まえ，今後，学会の運営費を効果的に使っていくことの重要性について説明があった。

（5）名誉会員の内規について（事務局）【資料4】

資料に基づき，名誉会員の内規の修正について提案があり，審議の結果承認された。

今野事務局長より，篠原文陽児氏を名誉会員に推薦することについて提案があり，審議の結果承認された。

今野事務局長より，名誉会員に選ばれた先生を総会で表彰する際，学会側で交通費を出すことについて提案があり，審議の結果承認された。

(6) 年次大会委員会（堀田博）【資料 5】

資料に基づき、第 30 回年次大会（2023 年度）の日程、シンポジウムⅠのテーマ、懇親会を開くことについて説明があった。

資料に基づき、シンポジウムⅡの学会 30 周年企画について意見を募った。堀田博史理事および宇治橋会長より、放送教育や視聴覚教育の歴史について扱う案について共有された。岸理事より、教育メディアの過去の 30 年だけでなく、次の 30 年を見据えた話も入れた方が良いのではないかという意見があった。稲垣理事より、関連する学会の会長を呼んで日本教育メディア学会について論じてもらうことも良いのではないかという意見があった。岸理事より、敢えて関連性が近くない学会の会長を呼ぶのも良いのではないかという意見があった。山本理事より、これまでの課題研究や、これまでの学会誌に掲載されてきた研究を整理したり、フロアの人と交流する機会を設けたりすることも良いのではないかという意見があった。シンポジウムⅡについては、宇治橋副会長に各意見を取りまとめていただくことで承認された。

資料に基づき、課題研究が 5 件と例年より多く集まったが、5 件のまま開催することとして良いかについて提案があり、審議の結果承認された。

(7) 編集委員会（国内担当）（小柳）【資料 6】

資料に基づき、投稿規定の改訂を行ったこと、論文投稿テンプレート改訂を行ったこと、論文投稿（初発）時のカバーレターを作成したことが報告された。

資料に基づき、2023 年度 30 巻 1 号と 2 号の発刊スケジュールが報告された。

(8) 編集委員会（国際担当）（佐藤）【資料 7】

資料に基づき、論文誌の査読・刊行状況が報告された。

資料に基づき、2023 年度の計画が報告された。

(9) 研究委員会（国内担当）（稲垣）【資料 8】

資料に基づき、第 2 回研究会の実施結果が報告された。

資料に基づき、2023 年度第 1 回・第 2 回の研究会のスケジュールが報告された。

資料に基づき、今年度の研究委員会（国内担当）の予算について説明があった。審議は（14）で行った。

資料に基づき、研究会論集と研究会報告の書式を一部改訂することについて提案があり、審議の結果承認された。

資料に基づき、新規委員を推薦したことが報告された。

資料に基づき、研究会論集の J-Stage 掲載を検討していることが報告された。

(10) 研究委員会（国際担当）（岸）【資料 9】

資料に基づき、ICoME2023 の準備状況が報告された。

資料に基づき、今年度の研究委員会（国際担当）の予算について説明があった。審議は（14）で行った。

資料に基づき、ICoMEにおけるConference Paperに関する位置付けの検討結果が報告された。
小柳理事と黒上理事より、二重投稿の規定に関してはさらに検討する方が良いという意見があった。

(11) 広報委員会（岩崎）【資料 10】

資料に基づき、2022年度の事業報告について説明があった。
資料に基づき、2023年度の事業計画が報告された。

(12) 企画委員会（中川）

今年度も年次大会で企画セッションを開く予定であることが報告された。
堀田博史理事より開催日について質問があり、昨年度と同じ2日目予定であることを確認した。

(13) 日本教育メディア学会論文賞選考委員会（黒上）

今後のスケジュールが報告された。

(14) 2023年度予算案（事務局）【資料 11】

資料に基づき、2023年度予算案について提案があり、審議の結果承認された。

・次回理事会開催について

11月4日（土） 10:00－12:00 関西大学初等部にて開催。

<配布資料>

- 資料 1 入会者・退会者について
- 資料 2-1 2022年度事業報告
- 資料 2-2 2023年度事業計画
- 資料 3-1 2022年度 賃借対照表（事務局）
- 資料 3-2 2022年度 正味財産増減計算書（事務局）
- 資料 3-3 2022年度 予算対比正味財産増減計算書（事務局）
- 資料 3-4 2022年度 収支事業別内訳（事務局）
- 資料 4 名誉会員の内規について（事務局）
- 資料 5 年次大会委員会
- 資料 6 編集委員会（国内ジャーナル）
- 資料 7 編集委員会（国際ジャーナル）
- 資料 8 研究委員会（国内）
- 資料 9 研究委員会（国際）
- 資料 10 広報委員会
- 資料 11-1 2023年度 収支予算案（事務局）
- 資料 11-2 2023年度 収支事業別内訳（事務局）

以上

学会費納入のお願い，入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日）の年会費（正会員7,000円，学生会員4,000円）が未納の方は，会員システムからお手続きください。学会HPの「会員マイページ」よりアクセスいただくことが可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも，会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合，下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨニイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は，下記記号番号をご利用ください。

記号：14160

番号：8658501

- ※ 振込手数料は，ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合，手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は，**振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」**にして下さい。それが出来ない場合は振込後，事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には，学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は，会費納入に併せて**年度ごと**に学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。**卒業・修了などにより学生会員の条件を満たさなくなった場合は事務局にメールでお知らせください。**

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では，「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また，学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。メールの不達，年度末の学会誌の返送が複数発生しております。確実にお届けするために，定期的に会員マイページにログインの上，登録情報の確認をよろしくお願いいたします。

また，まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も，この機会にマイページ登録（<https://jaems.jp/admission/mypage/>）をお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

入会者・正会員（7名）・・・藤橋 誠，小林 朝雄，杉森 絵里子，横山 美明，木村 千夏，川島 裕子，
島 智彦

入会者・学生会員（3名）・・・平山 靖，宇佐美 健，武内 三穂

退会者・正会員（14名）・・・保科 一生，奥泉 香，坂本 徳弥，山口 小百合，園屋 高志，高谷 浩輔，南部 昌敏，西貝 雅人，丸尾 陽二，三橋 功一，三宅 正太郎，村津 啓太，吉岡 有文，中西 隆英

退会者・学生会員（3名）・・・垣脇 健吾，斉 碩雅，永井 都月

除籍者・正会員（4名）・・・長尾 幸彦，高橋 麻理，杉本 大昂，井口 実千代

除籍者・学生会員（3名）・・・池田 直仁，林 傑暁，真伏 克明

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条では，会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。会費の納入状況についてご不明な点がありましたら，事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については，以下のように定める。

（1）正会員，学生会員，団体会員ならびに購読会員が，会費を3年間滞納したとき，その年度末をもって除籍され，会員の資格を喪失する。

（2）除籍された元会員が再入会するとき，滞納会費の納入を要する。

会員総数 356名・12団体

名誉会員：6名*

正会員：304名

学生会員：52名

団体会員：6団体

購読会員：6団体

（2023年5月10日 現在）

*会員総数に含まず。6名の氏名は学会HPにて公開。

日本教育メディア学会 事務局

〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1
明星大学 教育学部 今野貴之 研究室内

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 岩崎千晶（関西大学）

副委員長 永田智子（兵庫教育大学）

委員 井ノ上憲司（大阪大学）

尾崎拓郎（大阪教育大学）

高橋暁子（千葉工業大学）

多田泰紘（京都橘大学）